

小麦収穫を楽しむ参加者ら—高松市国分寺町で



「循環システム」を体感

高松 家族連れが小麦収穫

小麦を収穫する体験イベントが30日、高松市国分寺町の畑で行われた。この小麦は、製造過程などで余ったうどんを活用した肥料を使い栽培された。県と高松市、地元企業、NPO法人などがつくる「うどんまるごと循環コンソーシアム」が企画。家族連れら約10人が参加し、鎌や機械で小麦約100kgを刈り取った。

小麦生産農家、伊藤伸一さん(61)の所有。品種は「さぬきの夢2009」だ。伊藤さんは「コンのあるうどんが作れる品種。うどんを再利用した肥料は、安全性の高さは間違いない」と話す。コンソーシアムは7月に高松市でうどん手打ち体験を実施する予定で、今回収された小麦を使うという。家族で参加した小学4年生の女の子は「鎌

余りうどん肥料に再利用

コンソーシアムは2012年、残ったうどんを燃料や肥料に変え、それをうどん生産に活用する循環システムを作ることを目的に結成された。この循環を市民に体感してもらおうと昨年からは収穫体験を始め、今回で2回目。この他に環境をテーマにした教育活動を実施している。

畑は、コンソーシアムのメンバーで、コンソーシアム事務局長の久米紳介さん(45)は「製造工場やお店で残ったうどんを利用した肥料でうどんを作ることで、環境に優しい食の循環ができる。小麦の収穫体験から農家の大変さも実感してもらえればうれしい」と語った。

【待鳥航志】

7月「手打ち体験」で総仕上げ